

総務産業常任 委員会からの報告

主な審査経過
3月14日～23日

総務産業常任委員会に付託を受けた平成28年度各種会計予算について、主な審査経過を報告します。

宿泊研修交流施設関連予算 4億7,000万円減額訂 正申し出

◆一般会計予算

谷町政初の本格予算の編成であり、国の地方財政計画、町の予算編成方針、第5期下川町総合計画などに基づくもので、地域の諸課題の解決に向け、産業の振興、町民生活の安全・安心の確保、町民福祉の増進など積極的な予算編

成となっています。

歳入、歳出ともに、61億3,300万円を計上しています。

副町長から下川町の財政状況について、「交付税が伸びなく年々減少傾向にあるが、補助金などを導入し効果的な取り組みを進めてきている。大型事業によって借入が膨らんでくるので楽観視できない状況であるが、健全財政を堅持していきたい。」との答弁がありました。

所管課質疑、理事者見解等を踏まえ、審査まとめの冒頭、委員から「平成28年度下川町一般会計予算」に対して、修正動議が提出されました。

内容は、歳出では商工労働費の宿泊研修交流施設建設工事施工監理委託料1,000万円、建設工事費4億6,000万円の計4億7,000万円。歳入では繰入金2億8,000万円、町債1億9,000万円の計4億7,000万円をそれぞれ減額し、歳入、歳出ともに、56億6,300万円とするための予算の一部を修正しようとするものです。

その理由として、
○第5回臨時会において示さ

れた概算事業費を、大きく上回る額が計上されている。ヒートポンプの設置に至っては、当初説明されてなく整備費も多額である。

○サンルウム建設対策基金の繰入は、サンルウム周辺整備に活用することが本来であり、運用が適切であるか疑念が払拭できない。

○用地取得、外構工事、備品購入等を考慮すると、事業費がさらに増高することが予想できる。

○管理運営等その手法が不十分である。

○採算性や経済効果について楽観視できない。

○後年度負担の不安要素が大きく町民理解を得ることが困難である。

○五味温泉などへの影響も計り知れない。

○最大の理由は、町民の理解を得る説明責任を十分果たしていない。

以上、宿泊施設の必要性は理解できるが、財源、運営、採算性等諸事項を明確にした上、改めて町民説明など積極的な情報提供を行うなど政策決定過程を経るべきである。

そのことが、今後のまちづくりを行う上で重要な糧となることを期待したい。

として、修正案の提案説明がありました。

その後、質疑、反対・賛成意見などを求め、委員全員から修正案趣旨に賛意が示されました。

こうした中、町長から、議会議決規則第20条の2の規定により、議案訂正の申し出があり、本会議において承認されました。

内容は、修正案同様宿泊研修交流施設建設工事関係4億7,000万円を減額し、歳入、歳出ともに、56億6,300万円とするものです。

訂正後の「平成28年度一般会計予算」について、委員会における審査の経過と結果について報告します。

税務住民課

担当課から「平成30年度からの広域埋立ゴミ処分場の供用開始に向け、埋立ゴミの処理・運搬計画の作成を行う」などの説明がありました。

委員から、「庁舎前スクー

ルゾーンの安全対策は30km/hの速度規制となっていて、さらなる速度規制は難しいとのことであるが、昨年の和寒の事故を踏まえ、学年によってそれぞれ違う下校時間の安全対策が必要である。」、「ふるさと通り線側からちびっ子広場への入口通路として一部開けているが、周辺の生垣などを含め、子供誘拐などの危険を回避する方策が必要である。」などの意見がありました。

保健福祉課

担当課から子どもの予防接種事業で、「本年度からロタウイルス胃腸炎の予防接種費用を全額助成する。」「疾病予防として、20歳からの生活習慣予防事業、無料クーポン券発行などのがん検診を行う。」「多様な保育ニーズへ対応する。中学生までの医療費給付2歳時までの子育てに係る費用負担軽減を行う。」などの説明がありました。